

1 題材設定の理由**(1) 活動の内容・項目**

☆ 主たる内容・項目

- 〈(1) ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること〉
 - 学校における多様な集団の生活の向上
- 〈(2) ーア 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること〉
 - 自己及び他者の個性の理解と尊重

★ 関連する内容・項目

- 〈(2) ーア 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること〉
 - コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

(2) 題材設定の背景及び生徒の一般的な実態と現状

不登校や新卒者の早期離職など、高校生に関する問題の背景の一つに、「人間関係の希薄化」がある。特に、クラス内において人間関係が固定化し、新たな人間関係を築きにくい生徒が増えている。そこで、この授業では、クラスを超えた新たな集団(班)のもと、「出会う」「知り合う」「深める」といった体験的な演習を設定し、新たな人間関係づくりの促進を図る。併せて、クラス内の人間関係を超越して、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図ることを通して、人間関係づくりの基底にある自己肯定感を高めたいと考える。

(3) 指導法・指導上の留意点

- ① 事前にクラスの枠を外し、各班20名程度の班を作っておく。
- ② SGE(構成的グループ・エンカウンター(*1))の理論・手法を用い、体験的な演習を通して、生徒同士が所属クラスを超えてお互いを知り、互いの良さを理解することによって、自己肯定感が高まるような場を計画的に設定する。活動は、「出会う」→「知り合う」→「深める」と段階を踏み実施する。
- ③ 各活動においては「うまくやる」ことを第一の目的とせず、恥ずかしさや難しさを感じつつも生徒が相手のことを知ろう、自分のことを伝えようとする姿勢を大切にする。教師は、各活動の説明・進行を行うとともに、指示のわからない生徒への補足説明、恥ずかしがっている生徒への勇気づけ、脱線している生徒へのルールの再確認等を行う。生徒を叱って活動させるのではなく、恥ずかしさや照れを受け止めつつ活動を支援する。
(*1): 人間関係開発を意図したグループ体験。「ふれあい」と「自己発見」を通して、人間的成長を目的としたグループ・カウンセリングの手法。

2 指導目標

- (1) 人と関わる楽しさを実感し、新しい人間関係づくりの在り方を学ぶ。

3 指導計画**(1) 事前・事後指導**

- 〈事前指導〉－SHRにおいて、本時のねらいと活動の概要を予告し、意欲付けをする。
- 〈本時〉－授業「クラスを超えた人間関係づくり」を実施する。
- 〈事後指導〉－発展として、授業「自他尊重の表現方法」(高等学校第2学年授業実践プログラム1参照)を実施することもできる。

(2) 教科指導との関連

クラスを超えた選択授業のオリエンテーション等において、学習集団づくりとして活用可能。

4 指導案

(1) 指導過程

指導目標	人と関わる楽しさを実感し、新しい人間関係づくりの在り方を学ぶ。		
展開	活動の内容	指導上の留意点	評価・資料
導入 (5分)	1 本時の目的・活動内容の説明を聞く。	○ 本時のねらいに向けて全員で心を合わせて取り組むための雰囲気をつくる。	
展開 (30分)	2 テーマ「出会う」の演習をする。 ◎ 演習1 自己紹介 (※演習の進め方については、「教師用資料」を参照。以下同じ。)	○ できるだけ多くの人と知り合うことができるように励ます。 ・演習1 [3分] 2人組で次々に行う。	【評価1】 ◇「教師用資料」
	◎ 演習2 あなたと私は共通人	・演習2 [3分] 4人組をつくる。	
開 (15分)	3 テーマ「知り合う」の演習をする。 ◎ 演習3 ボールトス ◎ 演習4 質問コーナー	○ 相手の話をよく聞けるようにする。 ・演習3 [3分] 4人組で次々に行う。 ・演習4 [4分] 1人につき1分程度順次1つずつ質問していく。	【評価2】
	4 テーマ「深める」の演習をする。 ◎ 演習5 ほめまくり ◎ 演習6 私の好きなところ	○ 自他理解を勧めるようにする。 ・演習5 [8分] 1人につき2分程度、残り3人が順次ほめる。 ・演習6 [4分] 1人1つずつ自分の好きなところとその理由を述べていく。	【評価2】
まとめ (15分)	5 本時の活動を振り返る。 (1) グループで話し合う。 (2) 発表する。 (3) 振り返りカードに記入する。	○ 活動中の観察と合わせ、アフターケアの必要な生徒がいないかを確認する。	◇「振り返りカード」 【評価3】

(2) 評価計画 (評価の観点)

評価1 関心・意欲	○ 多くの人と積極的に知り合おうとする姿勢が見られたか。
評価2 知識・理解	○ 活動を通し、自己理解・他者理解を深めることができたか。
評価3 思考・判断	○ 活動を通し、新しい人間関係づくりの在り方を考えることができたか。

5 プログラムの展開例

- ◆ 活動場所 体育館（活動のできる広い教室）
- ◆ 準備物 椅子、ストップウォッチ（1個）、ボール（各班1個）、「教師用資料」「振り返りカード」

□ 導入（5分）

- 1 本時の目的・活動内容の説明を聞く。



今日はクラス以外の人たちと話をする機会を設けました。少しドキドキかも知れませんが、楽しい時間にしましょう！

□ 展開（30分）

- 2 テーマ「出会う」の演習を行う。

◎演習1 自己紹介



〇〇です、
よろしく！！

◎演習2 あなたと私は共通人



あと一人
で4人揃う

やっぱ
犬だね♡

- 3 テーマ「知り合う」の演習をする。

◎演習3 ボールトス



私の好きなものは、
・・・です。



私の趣味は、
音楽鑑賞です。

へー
そうなんだ(^o^)

◎演習4 質問コーナー

次は、質問コーナーです。一人に一つずつ質問して下さい。



んじゃ やってみっけ

相手が嫌がったり、困ったりする質問はしないようにしよう。



4 テーマ「深める」の演習をする

◎演習5 ほめまくり

〇〇さんは笑顔が素敵ですね。それと、清潔感がありますね。



◎演習6 私の好きなどころ

俺は、自分の明るいところが好きだよ。



□ まとめ (15分)

5 本時の活動を振り返る



意外と楽しかったね。

うんうん

ボールトスが楽しかったよ。

良い人間関係を築くには、自分を知り、相手を認めることが大切なんだね



6 生徒の反応（「振り返りカード」から）

- ・普通の授業より楽しかった。またやって欲しいと思った。
- ・今まで話したことがなかった人と話のできたのでよかったと思う。
- ・初めの方はあんまり面白くなかったけど「ボルトス自己紹介」は楽しくできた。
- ・つままないと思っていたけど、意外に楽しかった。
- ・今までにない感じの時間だったので、よかったと思う。
- ・友達の知らない部分を知れた。
- ・友達っていいと思った。
- ・友達との信頼関係が深まった。
- ・みんなのいい所をたくさん発見した。
- ・ほめられると結構嬉しかった。
- ・自分が少し好きになれた気がした。
- ・意外なところをほめられてびっくりした。
- ・言えないようなことを言えてよかったし、聞いてよかった。
- ・人と話すことは楽しいなと思った。
- ・一番難しかったのは自己紹介だった。
- ・恥ずかしくてあまりしゃべれなかった。
- ・言葉をすぐに出すことができず大変だった。

7 授業者の感想

- クラスを超えた新たな人間関係づくりができたのではないかと思う。
- 普段の生徒とは違った面を見ることができた。
- この授業を通して、生徒たちが社会や人間に対する見方を広げる契機になったと思う。
- 特に、ほめまくりが生徒たちに好評だった。普段ほめられる経験があまりないのだと感じた。
- 男女混合での演習は、演習が面白く展開していたようだ。
- 特定の友人同士といった狭い人間関係にいかに切り込むのか難しかった。今回は、その最初の一步であろう。
- 恥ずかしがり屋の生徒が多く、自己紹介や相手をほめる際に言葉が出るまで時間がかかる場面があった。

8 関連プログラム・参考文献等

◇ 関連プログラム

- ・「人間関係をつくる力を育てる指導援助プログラム（小・中・高等学校編）」
福島県教育センター教育相談チーム編

◇ 参考文献

- ・「エンカウンタで学級が変わる（高等学校編）」 図書文化
- ・「エンカウンターとは何か」 図書文化
- ・「エンカウンター スキルアップ」 図書文化

振り返りカード

I 今日の活動の感想を教えてください。

	その通り	やや その通り	あまりその 通りではない	その通り ではない
1 多くの人と出会うことができたか。	4 —	3 —	2 —	1
2 積極的に自己紹介できたか。	4 —	3 —	2 —	1
3 グループづくりがうまくできたか。	4 —	3 —	2 —	1
4 質問がうまくできたか。	4 —	3 —	2 —	1
5 相手の良いところを見つけることができたか。	4 —	3 —	2 —	1
6 自分の良いところが分かったか。	4 —	3 —	2 —	1
7 ほめられた時うれしかったか。	4 —	3 —	2 —	1

ほめられた時、気が付いたこと、感じたことは？

II 今日の活動全体を振り返って、感じたことや思ったことを自由に書いてください。

□演習の進め方・■指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

□ 演習の進め方について（基本）

- ① 基本的には、指導者（代表のリーダー）と各班毎のサブリーダーで実施する。（実施することが望ましい）
- ② 全体進行、各演習のやり方の説明・例示等は、指導者が行う。
- ③ サブ・リーダーは、適宜ペア、グループづくりの調整、演習中の生徒への目配りや支援を行う。
- ④ 班編成は学校の実態によるが、男女混合が望ましい。

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点について（基本）

- ① 照れや恥ずかしさからうまく活動できない生徒には、無理にやらせようとせず、「恥ずかしいよね」などと声をかけて気持ちを汲み取りつつ、「私と一緒にやってみようよ」など緩やかに励ます。
- ② 活動のやり方や留意点がわからない生徒には、わかりやすい言葉で補足説明し実際にやってみせるなどして支援する。
- ③ 留意点を無視したり脱線したりしている生徒には、叱ってやらせようとするのではなく、「〇〇君（さん）の今のやり方は留意点を忘れていない？」など事実を指摘し、「指示通りやるときっといろいろなことを体験できるよ」など声をかける。
- ④ 男女が仲良くやれるように声をかける。

◎ 演習1 自己紹介

多くの人と知り合しましょう。

□ 演習の進め方

体育館内を握手をしながら自分の名前を言い合う。

例：「～です。よろしくお願いします。」

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

生徒に混じって、一緒に自己紹介をするようにする。

◎ 演習2 あなたと私は共通人

共通する答えの人を探しましょう。

□ 演習の進め方

3つの質問の答えで、共通する人を探す。4人グループを作る。

例：①告白するなら（a 携帯電話 b 手紙）

②昼ご飯を食べるなら（a カレーライス b ラーメン）

③ペットにするなら（a 犬 b 猫）

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

- ・ 恥ずかしがっている生徒、やり方がわからない生徒、脱線している生徒がいた場合は、前述の留意点の基本に基づいて励まし、支援、声かけをする。
- ・ どうしても4人組が作れないときは介入する。

◎ 演習3 ボールトス 〔★ボールを使う〕

ボールを使って軽快に（1人の人が長い時間持たない）自己紹介をしてみましょう。

□ 演習の進め方

ボールを持っている人が出身中・好きな食べ物・所属部活・趣味などを加えながら自己紹介をする。終わったら別の人にボールをトスする。これを繰り返す。

例：「〇〇中出身の△△です。」 「いちごの好きな△△です。」

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

- ・ 特定の個人にトスが偏らないように配慮する。
- ・ ボールはやさしく手渡すように投げる。

◎ 演習4 質問コーナー

友達のいろいろな考え方・感じ方に触れてみましょう。

□ 演習の進め方

ボールトス自己紹介を受けて様々な質問をする。質問を受ける人を決めて順次1つずつ質問をしていく。答えたくない質問には答えなくてよい。

例：「今熱中していることはなんですか？」

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

- ・ 相手が嫌がったり、困ったりする質問はしないように事前に話す。

◎ 演習5 ほめまくり

今までの活動で発見した、友達の良いところや素敵なところをほめてあげましょう。

□ 演習の進め方

演習3、4の情報を受けて、友達をほめる。ほめられる人を決めたら、グループ のみんなまで順番に一言ずつほめる。

例：「△△さんの笑顔が素敵ですね。」

「〇〇君はバスケ部で頑張っているんですね。」

■ 指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点

- ・ 茶化したり、からかうようなほめ方はしないように事前に話す。

◎ **演習 6 私の好きなところ**

自分の好きなところを考えてみましょう。

□ **演習の進め方**

1人1つずつ順番に、自分の好きなところとその理由を発表する。時間が来るまで順次繰り返す。

例:「私は私の〇〇が好きです。なぜなら……だからです。」

■ **指導者及びサブ・リーダーの役割と留意点**

- ・ 思いつかない場合には、演習5で出た事柄を参考にしてもよいとする。
- ・ どうしても思いつかない場合にはパスも認める。